

#大学生ボランティア界限に聞いてみた



#龍谷大学4年生 新宅 凌央さん(写真右)
#摂南大学3年生 大橋 美優さん(写真左)

#ボランティア界限な一週間

- 月 授業・サークル
- 火 授業・バイト
- 水 授業・友達と遊ぶ
- 木 ボランティア・バイト
- 金 授業・課題
- 土 ボランティア
- 日 遊び・飲み会

学業やバイトとも両立



ボランティアに関わったきっかけは？

A. 新宅さん 大学生になってから、バイトと勉強漬けだった中で、漠然となにかをしたいと思っていました。そんな時、地元でボランティアをしていた祖母から、このまつりのことを聞きました。

A. 大橋さん 「人の役に立ちたい」という思いがありました。今では活動も楽しくて、このまつり以外にも清掃活動など多くの活動に関わっています。



高校生の皆さんに一言！

A. 新宅さん 敷居が高くないということは伝えたいです。アルバイトでは絶対つかめないものがゲットできます！

A. 大橋さん ボランティアをすることでそこが自分の居場所になっていると感じることもあります。

ボランティアを通して自分の居場所を見つけてください！



今回の大学生ボランティア
(左から)新宅 凌央さん、大橋 美優さん、
木村 花音さん、岡本 尚也さん



キャンパスライフとの両立はできますか？

A. 新宅さん バイトや授業の合間の時間で活動をしています。リフレッシュというか、自分の調子を整えるという気持ちでやっています。



ボランティア活動を通して、何か変化はありましたか？

A. 大橋さん ボランティア活動をはじめた時は「誰かのため」というイメージでした。今では活動で感謝の言葉をもったり自分が必要とされたりすることで、「自分の心も満たされる」と感じています。

#社協の担当者さんに聞いてみた



寝屋川市社協
寺本 麻理菜さん

子どもたちと大学生の力の大きさを感じています。大学生ボランティアは子どもたちのサポートをしつつ、全体を見てくれるなどいろいろな面で助けてもらっています。また、子どもたちのためとなると地域のボランティアも前向きで、「子どもが頑張るなら一肌脱ぐわ」と協力的です。

ボランティア活動をするのに必要なのは「一歩踏み出す勇氣」だけ！高校生のみんなも気負わず一歩踏み出しててください！

保育園や子ども食堂で子どもたちと遊ぶ、高齢者の話し相手になるなどボランティアを気軽に体験できるプログラムです。人との出会いやつながりもでき、かけがえのない経験になります！

各市町村社協のボランティアセンターにて受付中!!



大学生からはじめる！

#ボランティア界限

知っているようで知らないことが多い“ボランティア活動”。寝屋川市で9月に実施する「ぼらぽこどもまつり」に関わる4人の大学生に、ボランティア活動のあれこれを聞いてきました！
(この事業は、寝屋川市社会福祉協議会(以下、社協)が令和6年度から実施しています)

#ぼらぽこどもまつりとは



(写真は昨年のような)



誰が運営しているの？

公募で集まった大学生と一緒に、キッズキャストの「やりたい!」を形にし、どうすればボランティア活動の楽しさを実感してもらえるかを考えます。

また、まつりでは地域のボランティアが企画・準備のフォローや当日の進行などをサポートし、地元企業がブースの手伝いや資材などを提供しています。

社協は、このまつりを通じて、子どもたち・高校生・大学生・地域の大人や企業などがつながるきっかけを作っています。



どんなことをしているの？

「子どもたちによる、子どもたちのための、子どもたちのまつり」をテーマに、寝屋川市内の小中学生スタッフ(通称:キッズキャスト)が公募で集まり、お祭りのブースを自ら企画・運営します。

大学生ボランティアは、企画会議から当日の会場運営まで、キッズキャストが意見を出しやすい雰囲気づくりや盛り上げ役として関わります。

昨年は、射的やスーパーボールすくいなどが企画されました。近隣の子どもたちや地域の方などおよそ1,000人が参加し楽しみました。



今年はいつ・どこでやるの？

今年は、9月6日(土)15時より摂南大学寝屋川キャンパスで行われます。最新情報や打ち合わせのようすは、寝屋川市社協のInstagramをご覧ください。



@NEYAGAWASHIKAKYO

#“ぼらぽ”ってなに？

「ボランティアポイント」の愛称です。

地域でボランティア活動するとポイントがたまり、グッズなどと交換でき、ポイント集めを通して、ボランティア活動の楽しさや達成感などを感じられる仕組みです。※寝屋川市在住・在学の小・中学生対象

#地域のボランティアさんに聞いてみた

寝屋川市ぼらぽ隊実行委員会 新宅 智子さん

大学生は子どもたちと上手に関わってくれます。年の近い大学生と一緒に企画を立て、進めていくなかで、ボランティア活動の喜びを知ってほしい。